

MONOLITH PNS-25

ユーザーズマニュアル



プリンストンテクノロジー株式会社
V1.01

安全上のご注意

ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られるところに大切に保管してください。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

警 告

万一、次のような異常が発生したときは、そのまま使用しないでください。

- ・煙りが出ている、変な匂いがするなど異常のとき。
- ・内部に水や金属物が入ってしまったとき。
- ・落したり、キャビネットが破損したとき。

このような異常が発生したまま使用していると、火災や感電の原因となります。煙りが出なくなるのを確認してから販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

この製品を分解・改造しないでください。火災や感電の原因となります。

この製品を水などの液体で濡らさないでください。感電や故障の原因となります。

注 意

直射日光やストーブのような熱器具の近くなど、高温になるところに放置すると、変形・変質をまねくため、ご注意ください。

次のような場所には置かないでください。火災・感電・けがの原因となることがあります。

- ・湿気やほこりが多い場所
- ・ぐらついた台の上や傾いた所などの不安定な場所
- ・調理台や加湿器のそばなどの油煙や湯気があたる場所

汚れがひどい場合は、中性洗剤等で拭き取ってください。シンナーやベンジンなどは、絶対に使わないでください。

目次

Monolithの設定・管理	4
本製品の管理、運用に使用できる Web ブラウザについて	4
準備	4
本製品の [管理] ページへのアクセス	5
サーバ管理	7
Monolith各設定項目	8
[システム設定] ページ	9
サーバ名	9
日付と時刻	11
言語設定	12
システム情報の表示	12
[ネットワーク設定] ページ	13
TCP/IP の設定	13
Microsoft ネットワーク	15
Apple ネットワーク (AppleTalk)	16
Unix/Linux NFS	16
Web サービス	17
FTP サービス	17
ネットワーク設定情報の表示	18
[ディスク設定] ページ	19
ディスクドライブとディスクボリューム、共有フォルダの概念	19
単独ディスクボリューム	20
ストライピングディスクボリューム (RAID0)	20
ミラーリングディスクボリューム (RAID1)	20
[ユーザ管理] ページ	25
ユーザ	25
グループ	31
PDC 認証設定	34
容量制限	35
[ネットワーク共有] ページ	36
作成	37
プロパティ	39
アクセス設定	40
ネットワーク共有の削除	40
[システムツール] ページ	41
アラート通知	41
再起動/シャットダウン	42
ハードウェアの設定	43
UPS の設定	44
アップデート	47
リモートレプリケーションの設定	48
利用することができない文字について	50
リモートレプリケーション実行について	50
[統計&ログ] ページ	51
ユーザ情報	51
イベントログ	51
サーバ管理の終了	52
お問い合わせについて	53
カスタマーサポート・保証に関するお問い合わせ先	53

Monolithの設定・管理

本製品の初期設定（IPアドレス等の設定、第2章参照）が完了すると、Webブラウザを使用して本製品を管理、運用することができます。

本製品の管理、運用に使用できるWebブラウザについて

原則として、設定に利用するPCはWindowsマシンを推奨します。
次のWebブラウザが使用できます。

- ・ Microsoft Internet Explorer 5.5以上（Microsoft Internet Explorer 6.0を推奨）

Netscape Navigator 4.xは使用できません（一部表示されないページがあります）。
また文字が化ける場合、Webブラウザの言語や文字コードを日本語に設定してみてください。
Macintoshで操作される場合は、Internet Explorer 5.1以降が必須です（Internet Explorer 4.5では画面が正常に表示されません）。

準備

次の項目を必ず確認してください。

- ・ 本製品のIPアドレス（不明な場合は、本製品の起動後、LCDでご確認ください）
- ・ 管理、運用に使用するPCにイーサネット（TCP/IP）に対応するネットワークアダプタが搭載されている
- ・ 管理、運用に使用するPCと本製品が同一のネットワーク環境で接続されており、かつIPアドレスが異なっている（同じDHCPサーバからIPアドレスを配布されている場合は問題ありません）

本製品の [管理] ページへのアクセス

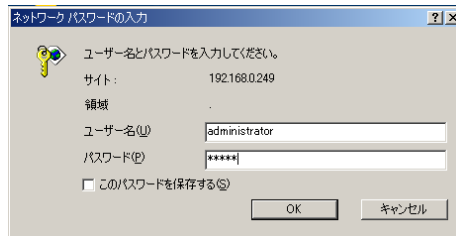
1. Webブラウザ (Microsoft Internet Explorer 5.5を推奨) を起動します。
2. Web ブラウザのアドレス欄に本製品のIPアドレスを次の形式で入力して、<Enter>キーまたはツールバーの [移動] ボタンをクリックします。

http://本製品のIP アドレス/

例 : http://192.168.0.1/



3. クイックインストールウィザード (付録C参照) に表示されている一覧から、本製品をダブルクリックします。本製品のホームページが表示されたら、[Administration] をクリックします。
4. ユーザ名とパスワードを入力するためのダイアログが表示されます。



次のデフォルトのユーザ名とパスワードを使用してログインしてください。

ユーザ名 Administrator

パスワード admin

パスワードを変更する場合は、[パスワードの変更] をクリックします。

最初に本製品にアクセスした場合は、[クイック設定] ページが表示されません。

Princeton Monolith Series

機種によっては、最初に接続したときにクイック設定の画面が表示されない場合があります。そのときは、画面の左上にある初期設定アイコンをクリックしてください。



2回目以降のアクセスの場合は、[サーバ管理] ページが表示されます。手順2の画面で [WEB ファイル管理] をクリックすると、手順4と同様に、ユーザ名とパスワードを入力後、[WEB ファイル管理] ページが表示されま

サーバ管理

サーバ管理は、次の8つの項目に分かれています。

システム管理

- ⇒ クイック設定
- ⇒ システム設定
 - ⇒ サーバ名
 - ⇒ 日付と時刻
 - ⇒ 言語設定
 - ⇒ システム設定情報の表示
- ⇒ ネットワーク設定
 - ⇒ TCP/IP設定
 - ⇒ Microsoftネットワーク
 - ⇒ Appleネットワーク
 - ⇒ Unix/Linux NFS
 - ⇒ Web サービス
 - ⇒ FTP サービス
 - ⇒ 設定を全て表示
- ⇒ ディスク設定
 - ⇒ ディスクボリュームの作成
 - ⇒ 単独ディスク
 - ⇒ RAID 1
 - ⇒ RAID 0
 - ⇒ ディスクボリュームの削除
 - ⇒ ディスクボリュームの検査
 - ⇒ ディスクボリュームのフォーマット
 - ⇒ ディスクボリューム情報の表示
- ⇒ ユーザ管理
 - ⇒ ユーザ
 - ⇒ 作成
 - ⇒ マルチユーザの作成
 - ⇒ パスワードの変更
 - ⇒ 専用ネットワーク共有の作成
 - ⇒ グループの設定
 - ⇒ NFS設定
 - ⇒ 容量制限の設定
 - ⇒ 削除
 - ⇒ グループ
 - ⇒ 作成
 - ⇒ 専用ネットワーク共有の作成
 - ⇒ ユーザの設定
 - ⇒ 削除
 - ⇒ PDC認証の設定 ⇒ 容量制限
 - ⇒ ユーザ設定のバックアップ/復元
- ⇒ ネットワーク共有
 - ⇒ 作成
 - ⇒ プロパティ
 - ⇒ アクセス設定
 - ⇒ 削除
- ⇒ システムツール
 - ⇒ アラート通知
 - ⇒ 再起動/シャットダウン
 - ⇒ ハードウェア設定
 - ⇒ UPS
 - ⇒ アップデート
 - ⇒ リモートレプリケーション
- ⇒ 統計&ログ
 - ⇒ ユーザ情報
 - ⇒ イベントログ
 - ⇒ DHCPログ

Monolith各設定項目



この画面がMonolithの設定の基本画面になります。

[システム設定] ページ



[システム設定] ページでは、サーバ名、日付、時間、言語等を設定します。

サーバ名

ネットワーク上で検出されるMonolithの名称や所属ワークグループなどを定義します。

A screenshot of a web-based configuration form. The title bar is blue and contains the text "サーバ名、ワークグループ、説明を入力してください" (Please enter server name, workgroup, and description). The form area has a yellow background and contains three input fields. The first field is labeled "サーバ名" (Server Name) and contains the text "NAS0001 AF". The second field is labeled "ワークグループ" (Workgroup) and contains the text "NAS". The third field is labeled "説明" (Description) and contains the text "NAS Server".

- ・サーバ名

ネットワーク上で本製品を参照する場合のサーバの名前を入力します。LCDに現在のサーバ名が表示されます。英字 (A~Z、a~z)、数字 (0~9) およびハイフン (-) を組み合わせて半角14文字以内のASCII文字です。

名前に空白文字やピリオド (.) を含めたり、数字だけを使用したりすることはできません。

ここで設定した名前が、本体のLCDにも表示されます。

- ・ワークグループ

Microsoftネットワーク上で本製品が属するワークグループの名前を入力します。

通常は本製品を使用するPCのワークグループ名と同じにします。

半角15文字以内です。次の15文字の特殊文字は使用できません。

;"<> *+=¥ ||?, [] /

最初の文字にピリオド (.) は使用できません。

管理操作を簡略化するには、本製品と本製品に接続されたPCの両方のワークグループ名を同じ名前に設定します。

- ・説明

WindowsのマイネットワークからMonolithを見たときに表示されるコメント欄の文字列を入力します。主に本製品を説明する (管理者名、部門

などの解説)コメントを入力することが多いでしょう。コメントは全部で半角48文字まで入力できます。

日付と時刻

本製品が現在時刻として保持する日付と時間を設定して、タイムゾーン（時間帯）を選択します。不正確な日付と時間が設定されている場合は、次のような問題が生じる可能性があります。設置後必ず最初に日付と時刻を設定してください。

- 本製品に保存するファイルの作成 / 更新日時等が正しく記録されません。

この場合、ネットワーク上のどのファイルが新しいかを判断できなくなります。またログが正しく記録されなくなる場合もあります。

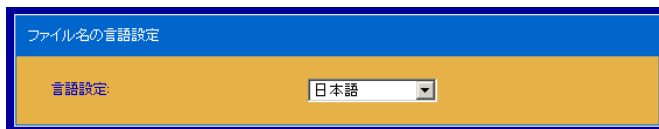
- タイムゾーン**
Monolithに設定するタイムゾーン（時間帯）をポップアップメニューの中から選びます。通常は「Osaka, Sapporo, Tokyo」を利用します。
- 現在の日付と時刻**
Monolithに設定されている日付と時刻を表示します。
- 日付と時刻の変更**
設定されている日付や時刻を変更するには、2つの方法があります。手動で設定を変える場合は、「日付と時刻を手動で変更します」にチェックを入れてください。それから日付と時刻の欄に設定したい値を入力し、「適用」ボタンを押してください。
- 自動的に時刻を修正する**
インターネット上にある基準時刻配信サーバに接続し、日付や時刻のデータを取得してMonolithに設定することができます。
「NTPサーバクライアントの設定」にチェックを付け、NTPサーバアドレスの欄に、接続したいNTPサーバのIPアドレスを入力します。そのIPが正しいかを確認するには「テスト」ボタンを押してください。適切なアドレスであれば「成功」と表示されます。

「間隔」では、MonolithからNTPサーバに時刻の確認を行う間隔を設定することができます。

- ・ 複数あるMonolithを連携させる
「NTPサーバを有効にする」にチェックを入れると、擬似的にMonolithをNTPサーバとして稼働させることができます。時刻の配信先のアドレスを3つまで設定することができます。

言語設定

本製品は、複数の言語による表示をサポートしています。設定可能な言語は1ヶ国のみです。言語を変更している間は、クライアントPCからファイルをコピーできません。設定した言語を使用して、ファイルやフォルダ名などを正しく設定しない場合、「ファイルやフォルダの名前を正しく読み出す/書き込むことができない」等の問題が生じる可能性があります。



ファイル名の言語設定

言語設定

システム情報の表示

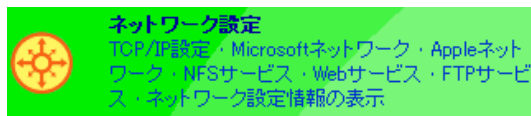
現在設定されているシステム情報を一覧で表示します。



システム設定情報の表示	
サーバ名	
サーバ名	NAS0001AF
ワークグループ名	NAS
説明	NAS Server
日付と時刻	
日付	10月 16, 2003
時刻	12:34:46 PM
タイムゾーン	(GMT+09:00) Osaka, Sapporo, Tokyo
言語	
コードページ	日本語 (932)
システム情報	
バージョン	2.27 Build 1002

[ネットワーク設定] ページ

[ネットワーク設定] ページでは、本製品のTCP/IP設定や使用するネットワークプロトコルを設定します。



TCP/IPの設定

本製品が所属するネットワークの構成により、次の2種類の方法から選択します。

A screenshot of the "TCP/IP設定" (TCP/IP Settings) window. The window has a blue title bar and a yellow background. It contains two radio buttons: "IPアドレスをDHCPによる自動取得" (Obtain IP address automatically) and "手動設定の使用" (Use manual settings). The "手動設定の使用" option is selected. Below the radio buttons are input fields for "指定のIPアドレス" (192.168.0.1), "ネットマスク" (255.255.255.0), and "デフォルトゲートウェイ" (0.0.0.0). There is a checkbox for "DHCPサーバを有効にする" (Enable DHCP server) which is unchecked. Below this are fields for "開始IPアドレス" (192.168.0.100), "終了IPアドレス" (192.168.0.200), "リース期間" (1 day 0 hours), "プライマリDNSサーバ" (0.0.0.0), and "セカンダリDNSサーバ" (0.0.0.0).

- ・ DHCPサーバから本製品のTCP/IP設定を自動的に取得する
ネットワーク上にDHCPサーバがある場合のみ選択できます。[ダイナミックIPアドレスの使用] を選択すると、本製品はDHCPクライアントとなり、DHCPサーバから自動的にIPアドレスを取得します。
- ・ IPアドレスを手動で指定する
[手動設定の使用] を選択すると、ネットワークに適した本製品のIPアドレスを手動で入力することができます。同じネットワーク内でIPアドレスを重複して設定することはできませんので、必ずネットワーク管理者等に空いているIPアドレスをご確認ください。

IPアドレスを手動で指定する場合、次の4つの項目も設定してください。

指定のIPアドレス

ネットワークに適した本製品のIPアドレスを手動で入力します。各項目で入力できる値は十進数で0～255までです。

例：192.168.0.32

本製品を利用するPCと本製品が同一のネットワーク環境で接続されており、かつIPアドレスが異ならなければなりません。同じDHCPサーバからIPアドレスを配布されている場合は、問題ありません。なお192.168.0.0や172.16.0.255は特別な用途があるので使用できませんのでご注意ください。

補足	LCDに現在の本製品のIP アドレスが表示されます。適切なIPアドレスが分からない場合には、ネットワーク管理者にご相談ください。
----	--

サブネットマスク

本製品のIPアドレスに対応するサブネットマスクを入力します。本製品を使用するクライアントPCと同じサブネットマスクを指定します。

例：255.255.255.0

デフォルト ゲートウェイ

デフォルトゲートウェイは、LAN とインターネット（WAN）を接続する機器のIPアドレスです。インターネットに接続しない場合は、0.0.0.0に設定します。

DHCPサーバを有効にする

有効にすると、本製品はDHCPクライアントとなり、DHCPサーバから自動的にIPアドレスを取得します。

通信上の競合を回避するため、同一ネットワーク上で同時に存在できるDHCPサーバは1台だけです。

Microsoftネットワーク

本製品を利用するクライアントPCがMicrosoft Windowsを使用する場合に有効にして、本製品にアクセスできるようにします。

Microsoftネットワーク

Microsoftネットワークを有効にする
ワークグループ名

WINSサーバを有効にする

指定のWINSサーバの使用
WINS IPアドレス

ローカルネットワークにWINSサーバが設置されている場合は、そのIPアドレスを指定します。これで、本製品のサーバ名とIPアドレスが、指定したWINSサーバに自動的に登録されます。または、本製品をネットワークのWINSサーバとして有効にすることもできます。

WINSのIPアドレスを0.0.0.0にすると、WINSに情報を送りません。

Appleネットワーク (AppleTalk)

本製品をMacintoshから利用する場合に有効にして、本製品にアクセスできるようにします。

ゾーン名

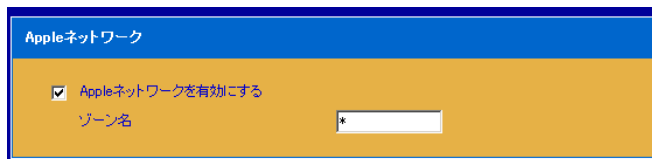
AppleTalkネットワーク上で本製品が属するゾーンの名前を入力します。

通常は本製品を使用するMacintoshのゾーン名と同じにします。

半角32文字以内のASCII文字です。次の特殊文字は使用できません。

"/¥ ::|?<>など

デフォルトのアスタリスク (*) を設定すると、すべてのAppleTalkゾーンからアクセスできます。



Unix/Linux NFS

本製品をUnix/Linuxから利用する場合に有効にして、本製品にアクセスできるようにします。NFSバージョン2.0 / 3.0をサポートします。正しくNFSサービスを利用するには、ユーザごとにUIDとIPアドレスを設定する必要があります。

([ユーザ管理] [ユーザ] [NFSの設定] で設定します)。



Webサービス

この項目を有効にすると、Monolithに用意された「Webファイル管理」機能を利用することができます。これは標準のサポートプロトコル以外に、Webブラウザを利用してMonolithの共有フォルダに置かれたファイルにアクセスできるものです。本製品がインターネットに接続され、インターネットで有効なグローバルIPアドレスが設定されていれば、世界のどこからでもWebブラウザ経由でファイルにアクセスできます。

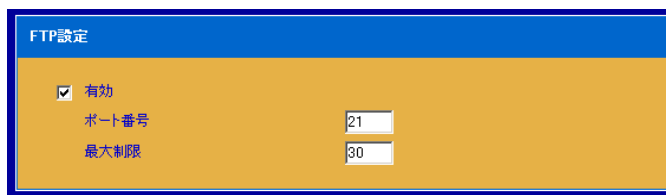


Webサービス	
<input checked="" type="checkbox"/>	Webファイル管理を有効にする

この設定は、セキュリティホールになる可能性があります。危険性を理解した上で、有効にしてください。使用される場合は、セキュリティ対策を施されることをお勧めします。

FTPサービス

FTPプロトコルを使用して、ネットワーク経由でファイルのアップロード / ダウンロードサービスを利用する場合に有効にします。またWebファイル管理機能に用意されている「FTP」経由でのファイルアクセスを利用する場合にも、この機能をオンにする必要があります。



FTP設定	
<input checked="" type="checkbox"/>	有効
ポート番号	<input type="text" value="21"/>
最大制限	<input type="text" value="30"/>

ネットワーク設定情報の表示

現在設定されているネットワーク設定やサービスに関する情報を一覧で表示します。

- ・「ネットワーク」
IPアドレスやMACアドレス、ネットワークの接続形態、DHCPサーバなどの情報を表示します

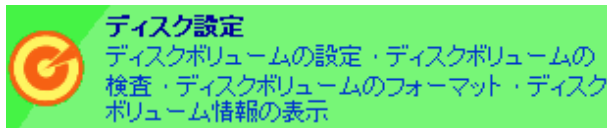
ネットワーク	ネットワーク設定
LAN設定	
接続方法	DHCP
IPアドレス	192.168.0.95
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	192.168.0.254
MACアドレス	00:AF:90:00:01:AF
接続状態	接続
DHCPサーバ設定	
有効にする	NO
割り当てIPアドレス	192.168.0.100-192.168.0.200
リース期間	1日0時

- ・「ネットワーク設定」
登録したネットワークサービスの情報を一覧表示します。

ネットワーク	ネットワーク設定
Microsoftネットワーク	
有効にする	YES
ワークグループ名	NAS
WINS IPアドレス	0.0.0.0
Appleネットワーク	
有効にする	YES
ゾーン名	*
Unix/Linux NFS	
有効にする	YES
Webファイル管理	
有効にする	YES

[ディスク設定] ページ

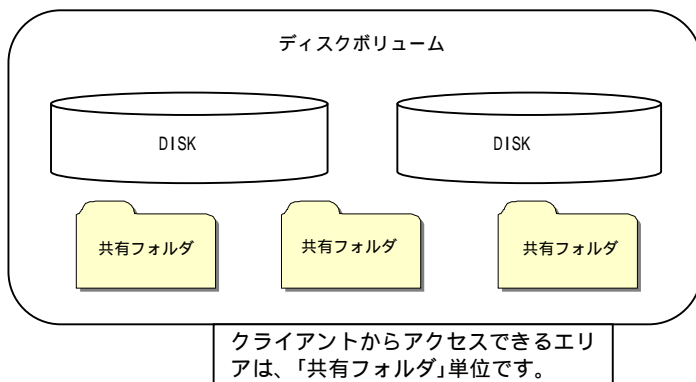
[ディスク設定] ページでは、本製品のRAID構成の設定や検査、スナップショットなどを設定します。



本製品には2台のディスクユニットが装着されています。ディスクボリュームはお客様のニーズに合わせて構成できます。

ディスクドライブとディスクボリューム、共有フォルダの概念

Monolithは通常RAID構成で利用します。Monolithでは内蔵されたディスク1台ずつにフォルダを作るのではなく、複数台のハードディスクをまとめてRAID構成をとったものを「ディスクボリューム」と呼ばれるものをデータ保管の単位として利用しています。例えば4台のディスクを使ってRAID5構成にした場合、あくまで1つの「RAID1のディスクボリューム」が生成されます。そのなかに、データを保管する「共有フォルダ」を作成して利用します。ディスクボリュームそのものがクライアントから利用できるエリアではなく、ディスクボリューム上に作成した共有フォルダのなかを利用するのです。



ここでは、ディスクボリュームを作成するために、どのようなRAID構成を利用するのかを設定します。Monolithに用意されているRAIDの種類は次に示すとおりです。



単独ディスクボリューム

スタンドアロンでディスクを使用できます。ディスク容量を最大限使用できますが、万が一ディスクが破損すると、データが失われる可能性は高くなります。1台のハードディスクに対して1つのディスクボリュームを作成します。



ストライピングディスクボリューム (RAID0)

ストライピングディスクは、複数のディスクにデータを分割して書き込むため、最も高いパフォーマンスを得られる構成です。しかしその反面、ディスクの故障時にデータは保証されません。通常、ストライピングディスクは、ディスク容量を最大化したり、ディスクアクセスを高速にしたりする際に使用します。重要なデータの保存には適していません。ディスクボリュームの作成には、2台の以上のハードディスクが必要です。

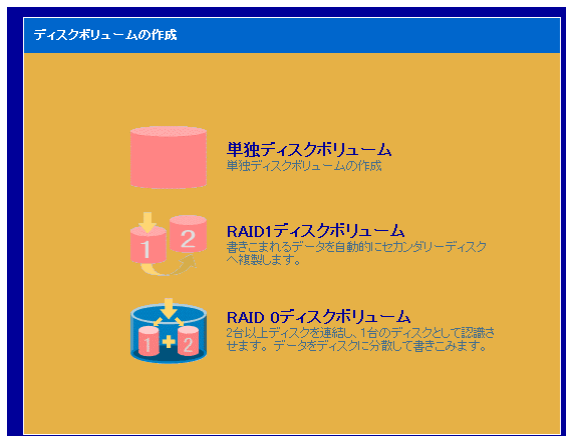


ミラーリングディスクボリューム (RAID1)

ミラーリングディスクでは、1台目のディスク上のデータを2台目のディスクに自動的にバックアップすることによりデータを保護します。いずれか一方のディスクが故障した場合でもデータを保護できます。ただし、2台目のディスクは1台目のディスクのバックアップとして機能するため、記録容量はディスク1台分になります。ミラーリングディスクは、個人や企業で重要なデータを保護する場合に適しています。RAID 1ディスクボリュームの作成には、2台のハードディスクが必要です。

[ディスク設定] ページでは、次のようなディスク管理ができます。

- ・ ディスクボリュームの作成
新たにディスクボリュームを作成します。




作成したいボリュームの種類アイコンをクリックしてください。するとボリューム作成に必要なディスクの選択画面が表示されます。



すでにディスクボリュームが作成されている場合は警告メッセージが表示されますので、先にディスクボリュームの削除を行う必要があります。

ディスクボリューム構成の設定が失敗しました



構成するディスクボリュームは存在しません。ディスクボリュームがフォーマット中か検査中の可能性があります。

- ・ ディスクボリュームの削除

選択したディスクボリュームを削除します。表示されているディスクボリュームの中から削除したいものをチェックし、「OK」ボタンを押すと、そのボリュームが削除されます。

ディスクボリュームの削除

削除するディスクボリュームを指定し、OKをクリックしてください。

警告: 指定したディスクボリュームのデータとネットワーク共有はすべて失われてしまいます。またユーザーの接続は解除されます。

注意: 共有表示をクリックすると、ボリュームの共有とユーザーがすべて表示します。

ボリューム	容量	空き領域	状態
<input checked="" type="checkbox"/> RAID 5 : ドライブ1,2,3,4	347071.20 MB	347039.12 MB	正常

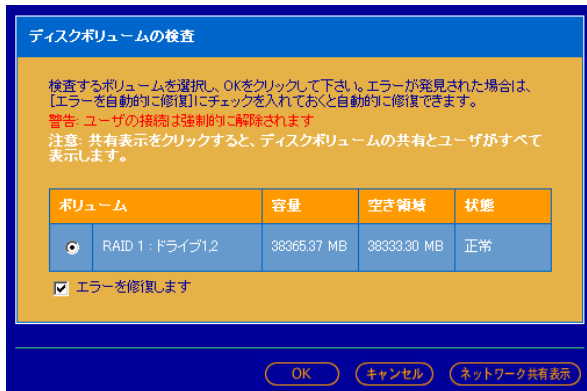
削除中は、次のような情報を表示します。

ディスクボリュームのレポート

タイプ	ディスクボリュームの削除
ソース	RAID 5 : ドライブ 1 2 3 4
対象	ドライブ 1 2 3 4
状態	初期化しています。
結果	-
コメント	完了するまで時間がかかります。

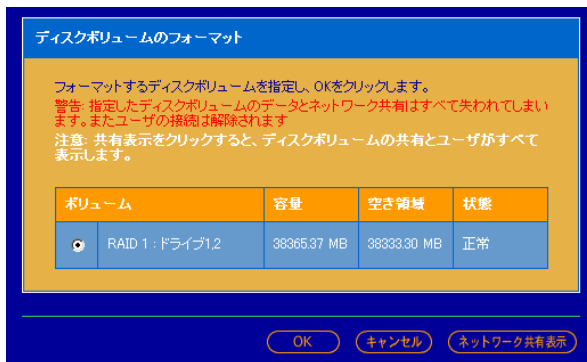
注意: 自動的に5秒ごと更新します。ディスクボリューム情報の表示ページで確認できます。

- ・ ディスクボリュームの検査
 選択したディスクボリュームの検査と修復を行います。



メディア上にエラーが発生している場合は、イベントログに記載されません。「エラーを修復します」にチェックを付けている場合は、自動的に不良セクタを使わないようにロックします。

- ・ ディスクボリュームのフォーマット
 選択したディスクボリュームをフォーマット（初期化）します。フォーマットを実行した場合、RAID構成は変更されません。



- ・ ディスクボリューム情報の表示
選択したディスクのボリューム情報を表示します。

The screenshot displays two tables within a blue-bordered window. The top table, titled '物理ディスク' (Physical Disk), lists two drives with their model numbers and capacities. The bottom table, titled '設定したディスクボリューム' (Configured Disk Volume), shows a RAID 1 configuration with its total capacity and free space. At the bottom right, there are two buttons: '更新' (Refresh) and '閉じる' (Close).

ディスク	モデル	容量	状態
ドライブ 1	IC95L040AVVN07-0	39266.72MB	正常
ドライブ 2	IC95L040AVVN07-0	39266.72MB	正常

ボリューム	容量	空き領域	状態
RAID 1 : ドライブ 1 2	38365.37 MB	38333.30 MB	正常

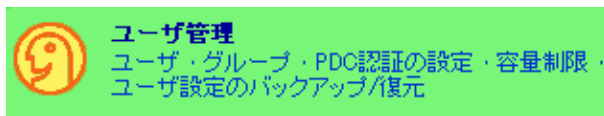
更新 閉じる

Monolithに搭載されているディスクの型番、物理容量、動作状態を表示します。また作成しているディスクボリュームの情報と空き容量、動作状態を表示します。

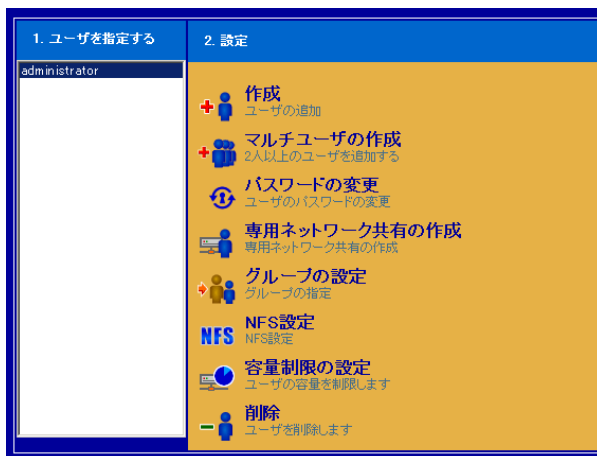
もしディスクに不具合が発生した場合は、状態の欄に「エラー」等を表示します。

[ユーザ管理] ページ

[ユーザ管理] ページでは、ユーザやグループの登録、パスワードの設定などを行います。



Monolithを利用するユーザと、そのユーザをジャンルわけ（属する）するグループの設定を行います。例えばひとつの部署に所属するユーザをひとつのグループに設定すれば、部署単位でアクセスするフォルダの設定が楽になります。



ユーザ

デフォルトでは、次のユーザが予め登録されています。

administrator	デフォルトのユーザadministratorは、グループadministratorsのメンバーで、システムを管理できます。ユーザadministratorは削除できません。
guest	登録されていないユーザ名が使用された場合、本製品はそれをゲストと認め、限定的なアクセスを許可します。ユーザguestはどのグループにも所属しません。ユーザguestは削除できません。またパスワードも変更できません。

必要に応じて、新しいユーザを作成できます。新しいユーザを作成する際は、次の情報を入力します。

ユーザの作成について

新しく作成するユーザを識別するための名前を入力します（ユーザIDと考えると良いでしょう）。既に存在するユーザ名は使用できません。ユーザ名は、大文字小文字を区別しません。

使用できるのは、半角32文字以内のASCII文字です。2バイト文字（例えば、日本語、国語、韓国語など）は使用できませんが、接続するクライアントOSによっては利用できない場合もありますので、ご注意ください。なお、次の特殊文字は使用できません。

" / ¥ [] : ; | = , + * ? < > ` `

使用できるのは、16文字以内のASCII文字です。セキュリティのため、少なくともパスワードは6文字以上を設定してください。

パスワード

ユーザが本当にそのユーザであるかを識別するための記号を入力します。管理者とそのユーザ以外に知られてはなりません。

パスワードは、大文字小文字を区分します。

・ ユーザの作成

新規ユーザを作成します。

The screenshot shows a form titled "作成" (Create) with a yellow background. It contains three input fields: "ユーザ名" (Username) with the value "Yamada", "パスワード" (Password) with "*****", and "パスワードの再入力" (Re-enter password) with "*****". Below the fields is a note: "注意 セキュリティのため、パスワードは6文字以上の長さの文字を入力してください。" (Note: For security, the password must be at least 6 characters long). At the bottom, there is a checked checkbox labeled "ユーザのグループを指定する" (Specify user group).

登録したいユーザ名（ユーザID）とパスワードを入力してOKを押してください。次にグループを設定する画面が表示されます（「ユーザのグループを指定する」にチェックを入れている場合）。

The screenshot shows a screen titled "グループの指定" (Specify Group) with a yellow background. It is divided into two columns. The left column is titled "ユーザ Yamada が属するグループ" (Groups user Yamada belongs to) and contains a list with "everyone". The right column is titled "ユーザ Yamada が属していないグループ" (Groups user Yamada does not belong to) and contains a list with "administrators". Between the columns are two buttons: "削除" (Delete) with a right-pointing arrow and "追加" (Add) with a left-pointing arrow.

右側に表示されているグループの中から、いま作成したユーザを所属させたいものを選んで「追加」ボタンを押します。それにより、グループの設定を行うことができます。

- ・ マルチユーザの作成

基本の文字列が同じ新規ユーザを、一度に複数名作成します。

マルチユーザの作成

ユーザー名接頭辞	<input style="width: 100%;" type="text" value="office"/>
ユーザー名のスタート番号	<input style="width: 100%;" type="text" value="001"/>
ユーザ数	<input style="width: 100%;" type="text" value="30"/>
パスワード	<input style="width: 100%;" type="password" value="*****"/>
パスワードの再入力	<input style="width: 100%;" type="password" value="*****"/>

注意: セキュリティのため、パスワードは6文字以上の長さの文字を入力してください。

ユーザー名接頭辞	キーとなるユーザ名を入力します。Keiriと入力した場合、Keiri001~Keiri099といった形でユーザ名が自動的に作成されます。
ユーザー名のスタート番号	最初に開始する数値を入力します。
ユーザー数	自動的に作成するユーザの数を設定します。
パスワード	全ユーザ共通のパスワードを入力します。

- ・ パスワードの変更

設定したパスワードを変更します。

office009 のパスワードを変更します。

パスワード	<input style="width: 100%;" type="password" value="*****"/>
パスワードの再入力	<input style="width: 100%;" type="password" value="*****"/>

注意: セキュリティのため、パスワードは6文字以上の長さの文字を入力してください。

ユーザ設定のトップページで選択したユーザに対して機能します。

- ・ 専用ネットワーク共有の作成
選択したユーザのみがアクセス可能な専用ネットワーク共有を作成します。
ここで作成した共有フォルダは、ネットワーク共有 > アクセス設定で、他のユーザからアクセスさせるなど、ユーザのアクセス権を変更することもできます。

ネットワーク共有名、ボリュームとパスを入力します。ユーザ Yamada だけネットワーク共有にアクセスすることができます。

ネットワーク共有名 Yamadanly

ディスクボリューム RAID 5 : ドライブ1240

パス

自動的コパスを指定する

手動でパスを指定する

Browse...

コメント

ユーザ設定のトップページで選択したユーザに対して機能します。

- ・ グループの設定
選択したユーザごとに、どのグループに所属するかを指定します。右側に表示されたグループをクリックして選択したあと、「追加」ボタンを押すことによって、そのユーザは指定したグループに所属します。

グループの指定

ユーザ Yamada が属するグループ

everyone

ユーザ Yamada が属していないグループ

administrators

削除

追加

- ・ NFSの設定

選択したユーザが、Unix・LinuxなどのOSからMonolithにアクセスする場合、このNFSの設定を行わなくてはなりません。ここでは、セキュリティレベルに応じて、3つのアクセスモードが用意されています。

IP	入力されたUID、クライアントのIPアドレスが適合した状態でアクセスが可能です。
IP/ネットマスク	UID、クライアントのIPアドレス、サブネットマスクの値が適合した状態でアクセスが可能です。
すべて	UIDのみの認証となります。IP、NetMaskの欄に入力できません

必要な情報を入力したあと、「追加」ボタンを押してください。
 なお、1つのユーザに対して複数のNFS設定を登録することもできます。

- ・ 容量制限の設定

登録されているユーザごとに、利用できる容量制限を設定します。容量制限は、Monolithにあるディスクボリュームごとになります。

制限値は、ディスクボリュームで同じ値となります。

- ・ ユーザの削除

登録されているユーザを削除します。ユーザを指定して「削除」を押すと、図のような警告メッセージが表示されます。削除したい場合は、「OK」を押してください。

ユーザを削除してもよろしいですか? Yamada.

注意: ユーザに割り当てられた共有のアクセス権はすべて失われてしまいます。

グループ

ファイルまたはフォルダへの同じアクセス権を与えるユーザを1つのグループにまとめます。デフォルトでは、次のグループが予め登録されています。

administrators	グループadministratorsの全メンバは、システムを管理できます。グループadministratorsは削除できません。
everyone	すべてのユーザはグループeveryoneに所属します。グループeveryoneに所属しないような設定はできません。グループeveryoneは削除できません。

必要に応じて、新しいグループを作成できます。新しいグループを作成する時には、次の情報を入力します。



グループ名

新しく作成するグループを識別するための名前を入力します。既に存在するグループ名は使用できません。グループ名は、大文字小文字を区別しません。

使用できるのは、256文字以内のASCII文字です。最初の1文字はアルファベット (A ~z) にしてください。2バイト文字 (例えば、日本語、国語、韓国語など) は使用できますが、次の特殊文字は使用できません。

" / ¥ [] : ; | = , + * ? < > ` `

デフォルトでは、次のグループが予め登録されています。

administrator	グループadministratorsのメンバは、システムを管理できます。 グループadministratorは削除できません
everyone	すべてのユーザはeveryoneグループに所属します。 グループeveryoneは削除できません

セキュリティ上、ユーザとグループの管理は非常に重要になります。各ユーザまたはグループの共有設定に従って設定してください。

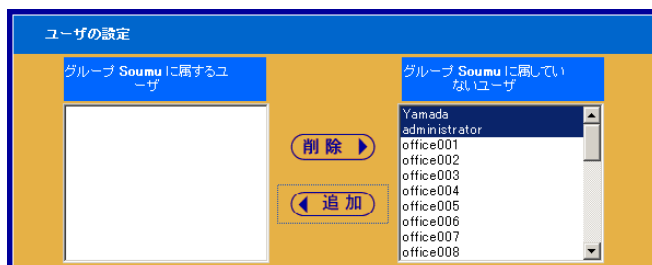
さらにここでは、次のような設定ができます。

- ・ グループの作成

新しくユーザが所属するためのグループを作成します。

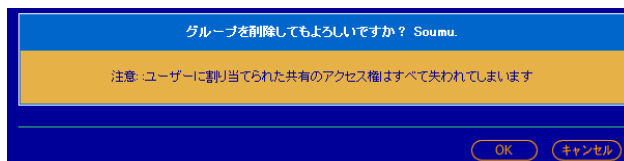
登録したいグループ名を入力してOKを押してください。次にどのユーザを設定する画面が表示されます (「ユーザのグループを指定する」にチェックを入れている場合)。

- ・ 専用ネットワーク共有の作成
- ・ ユーザの設定



登録したいグループ名を入力してOKを押してください。次にどのユーザを設定する画面が表示されます（「ユーザのグループを指定する」にチェックを入れている場合）。

- ・ グループの削除



PDC認証設定

ネットワーク内にWindows PDCサーバがセキュリティを扱う場合、PDC認証を有効にするだけで本製品のユーザおよびグループを再入力する必要がありません。本製品はNTドメインに接続して、ユーザおよびグループの情報をすべて自動的に取得します。

PDC認証を有効にするにはドメイン名、PDCに登録されているユーザ名およびパスワードを入力してください。本製品はNTドメインでユーザ認証を行えます。PDC認証を有効にすると、NTドメインユーザまたはグループは、アクセスできるリストに表示します。

ドメインコントローラ情報を入力し、「適用」ボタンを押すとユーザやグループ情報を取得します。もしコントローラ側で修正があった場合は、「同期」ボタンを押すことによって、修正分のデータを再取得します。

PDCによるユーザ認証が有効になっている場合、NetwareのNetサービスではPDCの使用やリモート認証が行えません。Netwareサービスが必要な場合、サービスを受けたいユーザはパスワードを変更してネットワークに再ログインして新しいパスワードを有効にしてください。（[ユーザ管理] [ユーザ] [Change Password]）

ドメインコントローラとして接続できるものは、Windows NT 4.0 Serverもしくは、Windows 2000 Server (Mixed Mode) のみとなります。

容量制限

容量

ディスク容量の割り当てを有効にする

ディスクボリューム当たりの容量 MB

注意: ユーザのディスク容量の割り当ては容量制限で変更できます

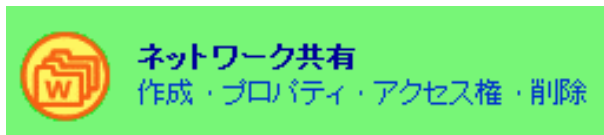
各ユーザごとに使用可能な最大データ容量を指定できます。予め管理者により指定された容量以上のディスクは使用できません。

「容量制限表示」を押すと、登録されているユーザの値とボリュームごとの利用容量を一覧表示します。

デフォルトでは容量制限は無効になっています。

[ネットワーク共有] ページ

[ネットワーク共有] ページでは、ファイルの共有設定を行います。

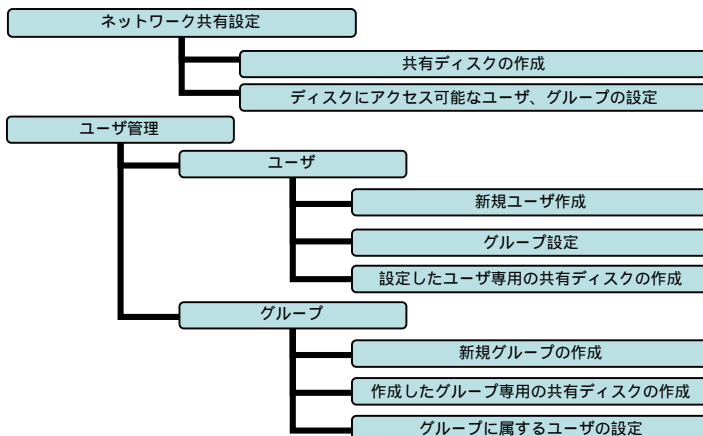


Monolithの主な目的の1つは、複数のクライアントからファイルを共有することです。ファイルの共有により、OSやマシンの違いを超えて同じ情報にアクセスしたり、同じ環境で作業したりできます。本製品では、ネットワーク共有という仕組みを利用してユーザやグループごとに異なるアクセス権を設定できます。



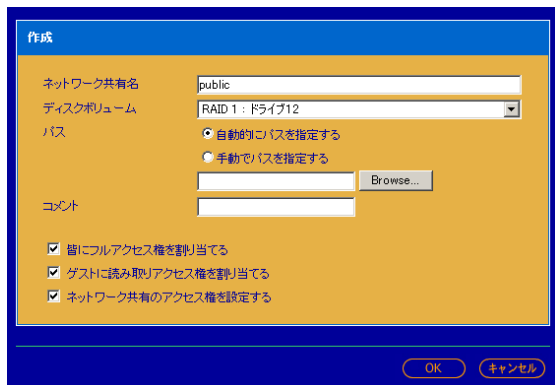
デフォルトでは、次の共有名が予め登録されています。

public	デフォルトの共有名publicは、ユーザguestを含むすべてのユーザから無制限にアクセスされます。
--------	--



作成

必要に応じて、新しいネットワーク共有を作成できます。異なるアクセス権を付与したい場合には、新しいネットワーク共有を作成します。



ネットワーク共有名を入力したあと、どのディスクボリュームに共有フォルダを作成するのかが選択します。特別にパスを指定しないのであれば、「自動的にパスを指定する」のチェックのままで大丈夫です。

共有名

新しく作成する共有名を識別するための名前を入力します。既に存在する共有名は使用できません。

使用できるのは、半角最大32文字以内のASCII文字です。ただし、機種依存文字と次の16文字の特殊文字は使用できません。

" . + = / ¥ : | * ? < > ; [] %

共有名に日本語（2バイト文字）を利用することは可能ですが、OSが異なる環境において、フォルダ名が正しく表示されない、フォルダが開けないなどの不具合が発生する可能性があります。これはOS側の文字コードの依存する部分ですので、問題が発生した場合は他の名前にするか、半角英数字でご利用ください。

作成先のボリューム名

作成した共有名は、選択したディスクボリュームの下に作成されます。

パス

共有フォルダへのパスです。ユーザは、ネットワーク上からこの名前のフォルダにアクセスできます。[パスの指定]を選択すれば、サーバはネットワーク共有ファイルを格納するディスクボリューム上に新しいパスを自動的に作成できます。また、共有フォルダに特定のパスを手動で割り当てすることもできます。また、手動でもパスを指定できます。

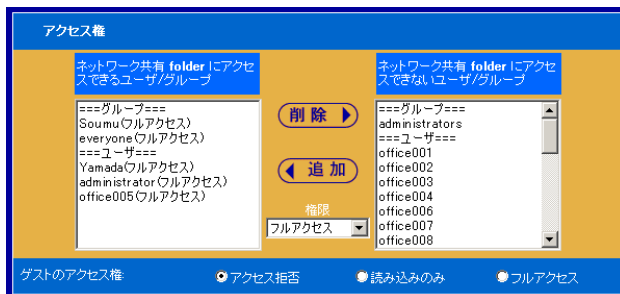
使用できるのは、半角256文字以内のASCII文字です。次の特殊文字は使用できません。

" ¥ ; | * ? < > ` ` `

コメント

必要であればコメントを入力します。コメントは半角128文字以内です。

プロパティの設定が終了したら、アクセス権限を管理できるようになります。ユーザ単位、グループ単位でアクセス権を指定できます。



右側の欄に登録されているユーザ/グループの一覧が表示されますので、作成したフォルダに対してアクセスを許可したいユーザを選択し、「追加」ボタンを押してください。そうすると、左側のアクセスできるユーザの欄に移動します。

このとき、アクセス権限は、以下の3種類を選択することができます。

フルアクセス

この権利が設定されたユーザやグループは、共有フォルダ内のすべてのファイルやディレクトリに対して読み書き、作成、または削除が実行できます。

読み取り

この権利が設定されたユーザやグループは、指定されたフォルダの既存のファイルのデータを読み込むことはできますが、ファイルの内容を変更したり、新たにファイルを作成したりはできません。

ユーザguestでログインした場合は、この権利が付与され、ファイルの読み取りのみできます。

アクセス拒否

この権利が設定されたユーザやグループに対して、指定されたフォルダのファイルへのアクセスをすべて拒否します。主にftpからのアクセス用に設定します。

プロパティ

作成した共有フォルダのディレクトリ、コメント、パスの変更などが行えません。

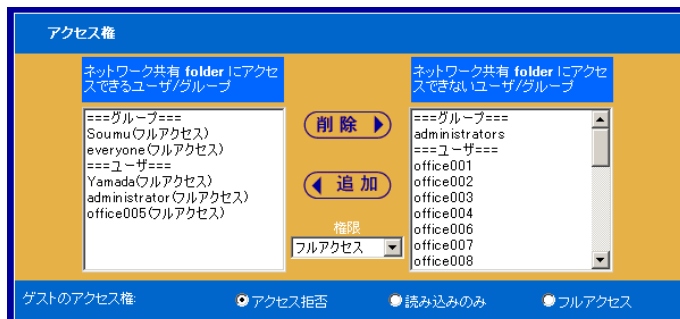
プロパティ

ネットワーク共有名	<input type="text" value="public"/>
ディスクボリューム	<input type="text" value="RAID 1 : ドライブ12"/>
パス	<input type="text" value="/public"/> <input type="button" value="Browse..."/>
コメント	<input type="text"/>

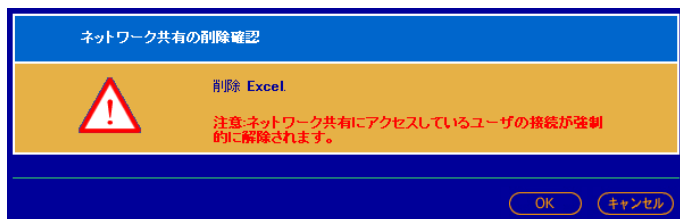
注意: 共有のボリュームのパスを変更しても、既存のボリュームのパスのデータは削除しません。

アクセス設定

指定した共有フォルダに対して、ユーザのアクセス権を変更したり追加することができます。



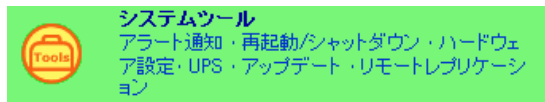
ネットワーク共有の削除



ネットワーク共有を削除します。間違えてフォルダを削除した場合のセキュリティのために、ここで共有フォルダを削除しても、データはディスクボリューム上に残っています。もし同じ名前で共有フォルダを作成すれば、元に戻すことが可能です。フォルダのデータもすべて消去する場合は、接続されたクライアントからファイルを削除してください。

[システムツール] ページ

[システムツール] ページでは、警告通知、本製品の再起動やシャットダウン、各ボタンやLCD表示のON/OFF、スタンバイ機能のON/OFFなど、Monolithの動作に関する設定を行います。またファームウェアのアップデートやユーザ設定のバックアップ/復元等ができます。



アラート通知

Monolithの動作中に、本製品が検出したすべての警告や不調は、自動的に電子メールで管理者に通知されます。

ここではメール送信に必要な管理者のE-mailアドレスと、SMTPサーバのIPアドレスを設定します。

アラート通知

レベル: 高: ドラブルやエラーが発生した時にメールを送る
 通常: 重大なエラーが発生した時だけメールを送る
 低: メール通知しない

メール(SMTP)サーバIPアドレス:

メールアドレス 1:

メールアドレス 2:

テストメールを送る

メール送信時のレベルとして、高、通常、低の3段階が用意されています。

高	システムの故障、レプリケーション実行時のエラー、機種依存文字などでレプリケーションファイルのコピーができなかった場合など、動作上、何らかの問題となる場合には、すべて通知します。
通常	システムの故障、レプリケーション実行時のエラーなどが発生した際に警告メールを通知します。
低	エラーが発生しても、エラー通知は行わない。

< ヘッダ情報の抜粋 >

From: NAS0001F7@xf7.so-net.ne.jp
 To: info@testdomain.co.jp
 Subject: Test
 Date: Sat, 1 Feb 2003 15:19:47 +0900 (JST)

< 以下が本文 >

Server Name: NAS0001F7
 IP Address: 192.168.11.70
 Date/Time: 02/01/2003 05:19:05

This is a test mail sent by NAS (NAS0001F7).

< ヘッダ情報の抜粋 >

From: NAS0001F7@xf7.so-net.ne.jp
To: info@testdomain.co.jp
Subject: NAS0001F7 Warning
Date: Sat, 1 Feb 2003 19:00:50 +0900 (JST)

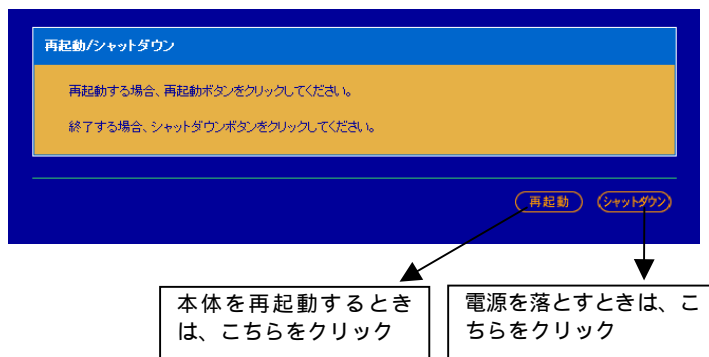
< 以下が本文 >

Server Name: NAS0001F7
IP Address: 192.168.11.70
Date/Time: 02/01/2003 09:00:00
Level: Warning

The system was not shutdowned properly last time.

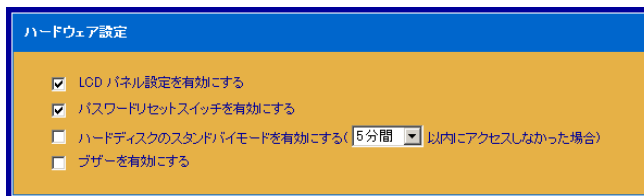
再起動 / シャットダウン

本製品を再起動したり、シャットダウンします。[再起動] ボタンまたは [シャットダウン] ボタンをクリックします。



ハードウェアの設定

本製品のハードウェアの動作に関する機能を、有効あるいは無効に設定できます。設定する項目は、下記の4つです。



The screenshot shows a web interface titled "ハードウェア設定" (Hardware Settings). It contains four items:

- LCD パネル設定を有効にする
- パスワードリセットスイッチを有効にする
- ハードディスクのスタンバイモードを有効にする(5分間以内にアクセスしなかった場合)
- ブザーを有効にする

LCD設定

デフォルトでは、LCDとボタンを使用してTCP/IP等を設定できます。初期設定後、LCD設定を無効にすると、LCDからの設定操作をすべて無効にします。ボタン機能も無効になります。不正な変更を防止し、運用性/セキュリティを向上させます。

リセットボタン

デフォルトでは、本体背面のリセットボタンを5秒間押し続けると、管理者パスワードがデフォルトに戻ります。管理者パスワードの変更後、この機能を無効にすることで、第三者がパスワードを変更できないようにして、セキュリティを向上させます。

ハードディスクのスタンバイ

デフォルトでは、指定した時間以内にハードディスクへのアクセスがなかった場合、ハードディスクを保護し、消費電力を抑えるために本製品はスタンバイモードになります。この場合、通常モードに復帰するのに多少の時間が必要になります。スタンバイモードを無効にすることで、通常モードへの復帰に伴う遅延をなくします。

アラームブザー

デフォルトでは、システムエラーが発生した場合ブザーが鳴るようになっています。同時に本体正面の赤い警告ランプが点灯します。

UPSの設定

UPSを接続すると停電や電源トラブル時に、システムは接続されたUPSユニットの給電状態をチェックして自動的にシャットダウンします。接続されているUPSと、電源の不具合時に何分後にシステムを終了するかを設定します。一般的に、UPSがシステムに発電できる時間は約5～10分です。ただし、この時間は、UPSの最大負荷とUPSに接続された負荷数によって異なります。

UPS

UPSサポートを有効にする

電源が異常の場合、システムは 5 分後シャットダウンします。

UPSモデル: APC USB UPS (auto detect) [テスト]

UPS IP: 0 0 0 0

UPSモデル: --
電源状態: --
バッテリー状態: --

UPSモデルを指定した後、指定したモデルを確認するに[テスト]ボタンをクリックしてください。

[更新] [適用]

使用しているUPSがサポートされているかどうかは、カスタマサービスに問い合わせるか、または弊社のWebサイトにアクセスして、最新情報を確認してください。

対応しているUPSの種類：APC社製CS350、CS500、Smart UPSシリーズ
(Network Management Card EX使用時のみ)

他社のUPSについては動作いたしません。

UPSは次の3種類の方法でサポートされます。

- USB経由 (CS350、CS500)

UPS本体に備わっているUSBとMonolithのUSBポートを接続します。

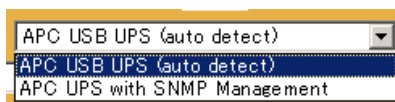
- SNMP経由

UPSに拡張カードである「Network Management Card」を接続し、カードのIPアドレスなどを設定したのちに、ネットワーク経由で接続する場合に利用します。この場合、ネットワーク経由で停電を検地した信号をやり取りしていますので、MonolithとUPSカードをつなげているネットワークHubの電源もUPSに接続してください。別電源の場合、連動させることができません。

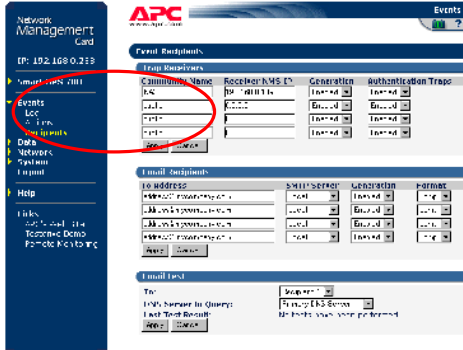


(写真 Network Management Card EX)

UPSのSNMP経由で接続した場合のみ、テストボタンを押したときのステータスが表示されます (他のモードでは、カードの仕様のため、UPSの情報を取得することができないためです)。

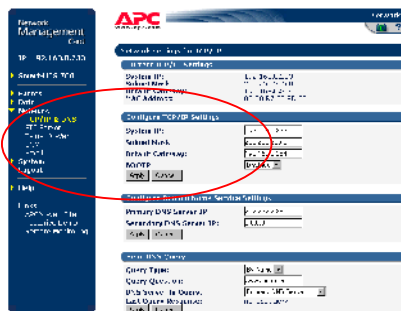


UPSの設定（ネットワーク経由）は、まずUPSの電源を落とし、カードをUPSに組み込みます（詳しい手順については、UPSとカードに付属しているマニュアル類を参照してください）。

1.	カードにネットワークケーブルを接続し、UPSの電源を入れたのち、カードに付属しているソフトウェアをインストールします。
2.	カードの管理画面を開き、カードに固有のIPアドレスを割り振ります。
3.	Receiver NMS IPに運動させたいMonolithのIPアドレスを入力します。 
4.	Monolithの管理画面にアクセスし、システムツール UPSを選択します。
5.	「UPSサポートを有効にする」にチェックを入れます。
6.	停電時にシャットダウンする前の時間を入力します。
7.	UPSのモデルを確認します（選択することはできません）。
8.	UPSのカードに設定されているIPアドレスを入力します。
9.	「テスト」ボタンを押して、接続されているかを確認します。

エラーが表示された場合、ネットワーク接続、カードのIP設定などを確認してください。

テストボタンを押して「正常」とメッセージが表示されたのであれば、「適用」を押してMonolithに情報を記録してください。



これで、Monolithに接続された電源が遮断された場合、設定された時間になると自動的にMonolithの電源が停止します。

カードの機能のため、電源が復旧した場合でもMonolithは再起動することができません。電源が復旧したら、Monolithの電源を再度入れてください。
UPSとカードの設定に関しては、弊社ならびにICPではサポートしません。設定の方法については、UPSならびにカードに付属しているマニュアル類を参照してください。

アップデート

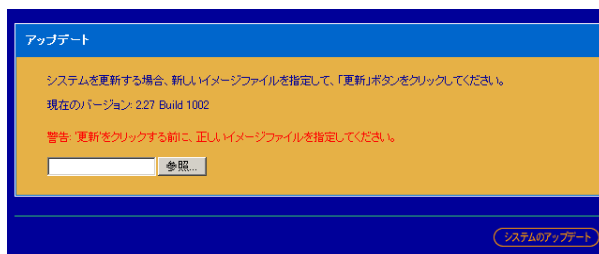
本製品は、ファームウェアを最新版にアップデートできます。
新しいファームウェアファイルをWeb等からダウンロードして、クライアントPC上に保存します。このページの[アップグレード]ボタンをクリックして、「参照」ボタンを押して表示されるダイアログでクライアントPCに保存したファイルを選択すると、アップデートを開始します。

PCからMonolithにアップデートファイルが転送され、Monolith内部でファイルのアップデート処理が開始されます。この処理は1~3分程度で処理が完了します(利用しているMonolithの機種や利用しているPCやネットワーク環境によって時間は異なります)。

この間、ブラウザの画面を切り替えたり、PC上で他のアプリケーションを稼働させないようにしてください。

Monolith内部でアップデート処理が終了すると、画面が自動的に切り替わり、システムの再起動を促すメッセージが表示されます。「はい」を押して、Monolithを再起動します。

処理が完了したら、再びWebブラウザでMonolithに接続して、管理画面のトップページを開いてください。左下にあるバージョン表示が変わっていれば、アップデート作業は終了です(古いバージョンが表示されている場合、ブラウザのキャッシュに古い情報が残っていて書き換わらないことがありますので、表示の更新を試みてください)。もしくは、管理画面で「アップデート」を開き、現在のバージョンが新しくなっているかを確認してください。



アップデート作業をする前には、Monolith本体を一旦シャットダウンし、電源を再投入してから行なってください。お使いになられるWebブラウザは、Internet Explorer 6以降をお使いください。また、プロキシなどを使わないようにしてください。正常にアップデートできなくなる場合があります

アップデートの詳細については、弊社カスタマーサポート
フリーダイヤルTEL0120-262-686（平日9：00～17：30）
または、call@princeton.co.jpまでご連絡ください。

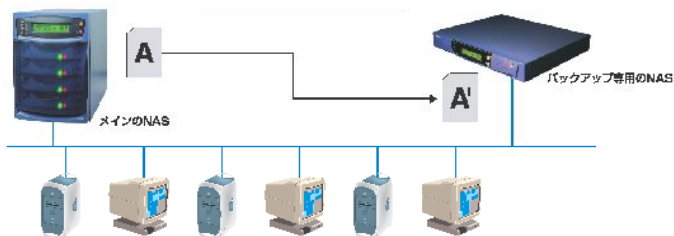
アップデートの前に、予め現在のファームウェアのバージョンをご確認ください（ [↓] ボタンを押すとLCDに表示されます）。

万が一に備えて、本製品内の全データをバックアップしてからファームウェアをアップデートしてください。正常にアップデートされた場合、本製品内の全データは、以前と同様にアクセスできます。アップデート後も、現在の設定は変更されません。

ファームウェアのアップデートには、約10分程度の時間がかかります。アップデート中は、クライアントPCからのアクセスを禁止し、絶対に本製品の電源を切ったり、再起動/シャットダウンを行わないでください。必ず画面の指示に従って、アップデート以外の操作をしないでください。

リモートレプリケーションの設定

リモートレプリケーションとは、Monolith製品同士でデータのバックアップを行う機能です。ネットワークで接続されているMonolith同士なら利用できますので、ローカルネットワークだけではなく、インターネット経由で遠隔地にあるMonolithを指定することも可能です（外部から利用可能な固定IPで設定されている必要があります）。



リモートレプリケーションを動作させるには、次のものがが必要です。

- ・ Monolith 製品（機種は問わず）もしくはICP社製Disk Online Serverシリーズ
- ・ Monolithを接続可能なネットワーク環境

リモートレプリケーションの設定

1. Monolithのシステム管理でログインして、「システムツール」>「リモートレプリケーション」を選択します。



2. タスクを作成 / 編集する画面が表示されます。新規にバックアップのタスクを作成する場合は、左側の「新規作成」をクリックしてください。
3. バックアップのボリュームやスケジュールを入力する画面が表示されます。

タスク名	タスク名を入力します
リモートバックアップソース	バックアップ先のフォルダ情報を入力します
ホスト名	バックアップ先のMonolithサーバ名（システム設定で入力したものを）を入力します
ネットワーク共有	バックアップ先のフォルダ（ネットワーク共有ディスク名）を入力します。第1階層のフォルダまで指定することができます
ユーザ名	ネットワーク共有ディスクにアクセスできるユーザ名を入力します
パスワード	ネットワーク共有ディスクにアクセスできるユーザのパスワードを入力します
リモートホストテスト	上記の設定で問題なくバックアップ先のMonolithに接続できるかテストします。問題がなければ「正常」と表示されます
ローカルバックアップソース	バックアップ元のフォルダ情報を入力します
ディレクトリ	どのフォルダの内容をバックアップするか、バックアップしたいフォルダ（ネットワーク共有ディスク名）を入力します。第1階層のフォルダまで指定することができます
バックアップ中	ここをチェックした状態でOKボタンを押すと、直ちにバックアップ処理が始まります
毎日/週単位/月単位	予め設定した日時になるとバックアップ処理を開始するよう、スタートのスケジュールを設定します
リモートレプリケーションを実行するには、webファイル管理を停止する	レプリケーション作業中に、他のユーザがバックアップ中のフォルダにあるデータを修正できないよう、フォルダにアクセスできないようにします
新しいファイルだけレプリケーション	フォルダ内にあるデータの内、更新されたものだけバックアップします
リモート先の余分なファイルを削除します	バックアップ先として指定したフォルダに、元のフォルダにないデータは削除します

新しいリモートレプリケーションを追加

タスク名

リモートバックアップソース

リモートホスト名 / IPアドレス

リモート先のパス (ネットワーク共有 / ディレクトリ) /

ユーザ名

パスワード

リモートホストのテスト (状態→)

ローカルバックアップソース

ソースパス(ネットワーク共有 / ディレクトリ) /

レプリケーションをすぐに実行

レプリケーションスケジュール 時 分

毎日

週単位

月単位 日

ファイル圧縮を有効にする

リモートレプリケーション実行中、クライアントからのファイルアクセスを禁止する

新しいファイルだけレプリケーションする

リモート先の余分なファイルを削除する

リモートレプリケーションの実行時の注意

バックアップ元にあるファイルを取りまとめたテンポラリファイルが一時的に作成されます。

これは転送するファイルをひとつのファイルに圧縮して転送するとき時間を短縮するためです。レプリケーション処理が実行されると、まずこのファイルの作成が始まります。

利用することができない文字について

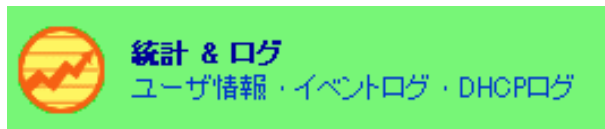
¥ は、OS内部においてディレクトリ構造を示す特殊な文字です。そのためファイルやフォルダ名に¥を使うと、そのファイルやフォルダはリモートレプリケーションで転送することができません。また機種依存を使った場合も、転送できない場合があります。

リモートレプリケーション実行について

複数のタスクを同時に実行しても問題はありません。しかし、同時に実行すると、単独で動作させるよりも処理時間は長くなります。それぞれの転送ファイル容量や数にもよりますが、あまり多くのJobを同時に実行すると、リモートレプリケーションの動作が不安定になる場合があります。そのため、Job数は20～30程度までを目安にしてください。

[統計&ログ] ページ

[統計&ログ] ページでは、Monolithに接続しているユーザ情報や動作ログ等が表示されます。



ユーザ情報

現在本製品にログイン中のユーザの一覧が表示されます。

ユーザがアクセスしている共有フォルダ、ユーザ名、ユーザ（クライアント）のIPアドレス、Monolithにログインした開始時間、接続タイプ（ネットワークサービス）を一覧で表示します。

現在、ユーザは 2 名です				
ネットワーク共有	ユーザ	アドレス	ログイン時間	接続方法
folder	administrator	192.168.0.115	14:25:32 Fri Oct 17 2003	Microsoftネットワーク
test2	guest	192.168.0.67	14:05:57 Fri Oct 17 2003	Appleネットワーク

イベントログ

本製品が記録した動作に関するログが表示されます。システムに故障などの不具合が発生した場合（LCDのバックライトが点滅）、イベントログを表示して原因究明に役立てることができます。

最大3,000件の動作ログ（情報、警告、エラー）が記録されます。3,001件目のログは、1件目のログを上書きして記録されます。

情報（白字）	システムの動作情報です
警告（青字）	この動作には、問題がある可能性があります。ネットワークやセキュリティの設定によっては、何らかの対処が必要です
エラー（赤字）	何らかの対処が必要です

ここに表示されるログやLCDのエラー表示で、本製品に問題がないかどうか診断します。もし動作がおかしい場合や、故障だと想定された状況になったら、まずこのログを確認してエラーなどが表示されていないかを確認してください。またサポートに連絡する際には、このログの内容をお尋ねしますので、ファイルにコピーするか、プリントアウトしておいてください。ログの詳細については、「トラブルシューティングガイド」を参照してください。

表示 <input type="text" value="すべてのイベント"/> ページ			
ログファイルが6 件あります <input type="text" value="1"/> <input type="button" value="上へ"/> <input type="button" value="下へ"/>			
タイプ	内容	日付	時刻
情報	/dev/hdk1: clean, 22/51400 files, 6516/204801 blocks [e2fsck]	10/17/2003	14:56:12
情報	/dev/hdl1: clean, 22/51400 files, 6516/204801 blocks [e2fsck]	10/17/2003	14:56:11
情報	/dev/hde1: clean, 22/51400 files, 6516/204801 blocks [e2fsck]	10/17/2003	14:56:04
情報	/dev/hde1: clean, 22/51400 files, 6516/204801 blocks [e2fsck]	10/17/2003	14:56:03
情報	System started.	10/17/2003	14:55:58
情報	System was shut down on Wed Oct 15 11:02:54 JST 2003.	10/15/2003	11:02:54

サーバ管理の終了

ユーザ登録やディスク設定など、サーバの管理が終了したら、Webブラウザを閉じる前に、必ずログアウトボタンを押してください。これを押さないで、ブラウザのキャッシュに管理者のIDとパスワードが残ることがあります。

お問い合わせについて

カスタマーサポート・保証に関するお問い合わせ先

受付期間 9:00 ~ 12:00/13:00 ~ 17:00 月曜 ~ 金曜日
(土・日・祝祭日及び弊社指定休日を除く)

〒101-0032東京都千代田区岩本町3-9-5 K.A.I.ビル3F

プリンストンテクノロジー株式会社 NASサポート

TEL : 03-6670-6848

FAX : 03-3863-7451

E-Mail : nas_support@princeton.co.jp

故障、不具合などが発生した場合は、下記の項目をお伝えいただけますよう、お願い申し上げます。

本体のモデル名

シリアル番号

ご購入日

ご購入先

ファームウェアのバージョン

ご連絡先

故障、不具合の内容

故障、不具合の発生日時

製品保証規定

お客様の正常なご使用状態の下で、お買い上げ頂いた製品の機能が万が一障害が発生した場合、不良機器をご返送いただき、修理完了後にお客様にご返送させていただきます。ただし、修理不可能と判断された場合は代替品を発送させて頂く場合がございます。この場合は入れ替え（交換）となりますので、製品のシリアルナンバーは購入時とは別のものになります。予めご了承ください。

製品の故障に起因して生じたデータの損失および他の機器に生じた二次的損害に関する保障は負いかねますので、必要なデータ等は予めバックアップして保存しておくことをご推奨致します。

故障機器からのデータ移行、バックアップデータからの復旧は、お客様自身で行っていただきます。

保障期間内であっても、次の場合は保証範囲より除外されるものとします。

データの損傷・損失

弊社の提供します保証サービス、保守サービスにより記憶媒体内のデータが消去及び変更されてしまった場合でも弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

設備、設置環境の不備等、使用方法および注意事項に反するお取り扱いによって生じた故障・損傷、大型複合機等（コピー、ファクシミリ含む）と同一配線上のコンセントを使用するなど、供給電力が一定しない場所に設置されている場合に生じた故障・破損。

弊社からの出荷時以外の輸送時等での落下や衝撃などの、お客様の操作・取扱いにより生じた故障・損傷。

火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、設置場所での電源異常などにより生じた故障・損傷。

接続している他の機器やその他外部要因に起因して生じた故障・損傷。

弊社の許可なく行った改造・改竄・調整・部品交換など、または当該事由に起因した故障・損傷。

お客様が独自にインストールされたソフトウェアに起因する故障・損傷。

磁気、温度、湿度、有毒ガス、粉塵などの使用環境に起因する故障や損傷。

ユーザー登録をされていない場合や製品購入日を証明できる書類がない場合。

ユーザー登録いただいている設置場所と実際の設置場所が異なる場合。

（初期設置後の移動に伴う登録内容の変更がされていない場合も含む）

保証書のご提示のない場合、または記入漏れ、改竄等が認められた場合。

お客様がハードディスクを増設または、交換したことによりNAS本体が損傷したと認められた場合。

お客様の故意または重過失により生じた故障・損傷。

スタートアップガイド記載の動作条件ならびに機器設置環境を満足していない場合。

弊社もしくは弊社指定の保守会社以外で本製品の部品交換・修理・調整・改造を施した場合。

この製品保証規定は、定められた保障期間内において本製品本体のみの無償修理をお約束するものであり、本製品の不具合、故障または使用によるデータその他の損害につきましては、弊社はその責を一切負わないものと致します。

本保証は日本国内においてのみ有効です。